

2019年度 夙川中学校入学試験

国 語

第 2 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号と氏名を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

待合室には大勢の患者さんが待つていて、一日のうちに全員を、自分が診なければなりません。少しの時間も無駄にできず、内心イライラしたり、オタオタしたり。今思い起こすと本当に、心中はやる気と不安のどうどうめぐりでした。「診療所所長」と肩書きばかりは立派そうですが、実力のともなわれない自分の無力さに泣きたいこともありました。

ただ、こんなときでも、自分の中では「でも、まったく期待されないよりは、頼られる方がずっといいよな」という気持ちに常がありました。私には小学生の頃、少年野球で「こいつには打てないだろう」と戦力外あつかいされ、試合の重要な場面で勝負すらさせてもらえなかった経験があります。その苦い思い出が、折れそうな自分を支えてくれるとは、何が幸いするかはわからないものです。しかも、その気持ちを応援する強力な心の支えも現れました。味方は、患者さんでした。

脳梗塞の後遺症で片足を引きずりながら、ニコニコして「なに、リハビリだよ」と、診療所へ一時間かけて通ってくれるじいさまがいました。「何があっても町の病院には行きたくないから、先生、最期まで診てちょうだいね」と語る、谷間のシュウラクに住む寝たきりのばあさまもいました。私が病名を特定できなかった患者さんが、自分で別の病院に行き、本当の病名がわかった後、わざわざそれを教えに来てくれることもありました。

私の処方箋で才がなかった患者さんが、その後、別の病院で処方された薬を手にしてやってきて「先生、次からこの薬を出してほしいんやけど」と言ってくれたりします。このようなことはおそらく都市部では考えられないことでしょうが、人口リユウドウの少ないへき地で、リピーターとなる患者さん方とおつきあいでは、ものすごくありがたいプラスのフィードバックがあり、私を成長させてくれるのです。

このような頼りない若造を医師として認め、「先生」と呼んで頼りにしてくれる村の人々を診ているうちに、自身自身の気持ちに変化が起きました。「この人たちのために医師として何ができるのかな？」と考え、「自分がこの村を支えるんだ！」という責任感が自然と芽生えてきたのです。

今思えば、それまでの私は既存の医療の価値観やシステムに地域を当てはめる、地域「医療」をしようとしていたのかもしれない。**X** 人を優先させて考えたとき初めて、その土地の特性に合った「地域」医療をするべきだということに気づいたともいえます。

むろんそのときはそれほど大きな視点で考えたわけでは

なく、目の前の「このじいさま、あのばあさまのために何ができるかな」と頭を捻るようになっただけでした。

これは**Y**、医者を活かす患者もいれば、医者を殺す患者もいるということではないでしょうか。患者さんの生命や健康は医者が握っていると思うかもしれませんが、逆もまた真なり。実は、医者の持つている能力を十分に発揮できるかどうかは、患者さん次第だといっても力ゴンではありません。

Z 仕事ですから、どんな場合でも個人的モチベーションは関係なく一〇〇パーセント頑張りますし、そのように努めます。けれども、患者さんに対して「この人のために頑張りたい！」と思ったとき、医者は持つている潜在能力の一五〇パーセントを出せるように思えるのです。

ところが、「この人から文句を言われないうにしなければ」と考えてしまうと、すっかり萎縮してしまい、能力の六〇パーセントしか発揮できないかもしれません。それが現在の困窮する医療の、大きな原因のような気がします。

ちなみに、奈良の月ヶ瀬診療所にいる私の同窓生、藤原靖士医師から、こんな話を聞いたことがあります。奈良市、佐保川診療所の医師、土井通靖先生が往診先で玄関にあった蜂の巣を取ってあげたということです。藤原君はこのことを「こういう気持ちと行動が、自分たち総合医、家庭医の本質かもしれないな。これもある意味、予防医学の一部だね」と評していました。確かに、蜂に刺されるとそのショックで亡くなる場合もあります。だからといって、どの医療者にも「蜂の巣を取れ！」などと理不尽な要求をしてはいけませんし、本来それは専門業者の仕事です。ただ、土井先生がそのとき巣を取ったのは、そこに住んでいたのが、思わずそうしてあげたくなるような人たちだったからでしょう。

注4 名田庄の患者さんもその意味で優れた「患者力」の持ち主揃いでした。その患者力は、私の経験不足を充分に補ってくれて、さらには私の意欲を存分に高めてくれたのでした。

(中村伸一『寄りそ医』による)

注1 リピーター：ここでは、くり返し訪れる人のこと。

注2 フィードバック：ここでは、評価した結果を、その行動をした人に伝え返すこと。

注3 萎縮：元気がなくなり、ちぢこまること。

注4 名田庄：筆者の勤務している病院がある所の地名。

一の設問

問一 線部 a～e を適当な漢字に直して答えなさい。

- a シュウラク b ナオ(ら) c リユウドウ
d ソ(った) e カゴン

B

- 1 苦しんでいる患者を自分よりも優先させよう
- 2 医者としての責任が重くなってゆううつだ
- 3 村のために自分ができる医療を前向きに考えよう
- 4 所長として自信を持って患者を治すことができる

問二 X Y Z に入れるのに適当な語を次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。ただし、同じ語を二度使つてはいけません。

- 1 さて 2 しかし 3 つまり
4 もちろん 5 なぜなら 6 たとえば

問五 「持っている潜在能力の一五〇パーセントを出せる」

(線部ウ)、 「能力の六〇パーセントしか発揮できない」 (線部エ) について、このような違いが生まれるのはなぜですか。その理由を次のように説明するとき、空欄に入る部分を本文中から二五字以上三五字以内で探し、その最初と最後の四字を書きぬきなさい。

一五字以上三五字以内 から。

問三 「その苦しい思い出が、折れそうな自分を支えてくれる」

(線部ア) とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 野球で期待されても応えられなかった幼い頃より、患者に信頼される現在の方がましだということ。
- 2 医者として無力だと感じるとき、幼い頃に野球で戦力外あつかいされた経験に勇気づけられるということ。
- 3 野球では期待に応えられなかったが、今は患者に認められる医師を目指し前向きになっているということ。
- 4 戦力外だった幼い頃の経験から、実力はあるのに認められない現状を変えたいと思っているということ。

問六 「優れた『患者力』の持ち主」 (線部オ) とあります。どのような患者のことですか。本文全体をふまえて、五〇字以内で説明しなさい。

問四 「自分自身の気持ちに変化が起きました」 (線部イ) とありますが、その気持ちの変化を次のように説明するとき、 A・B に入る語句として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

A と感じていたが、一人前の医師として多くの患者から頼られるうちに、 B と思うようになった。

A

- 1 所長として無責任だと思われる
- 2 患者をイライラさせてしまい申し訳ない
- 3 多くの患者から医者として頼られたい
- 4 患者にできばきと対応できず情けない

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

おかあさんは、その、道の真ん中で立っている女の人のところまで駆け寄ると、小さい声でこういいました。

「ママ……ごめんなさい」

すると、その女の人は、おかあさんの肩にそつと手を置きました。

「なにも謝ることはないよ。お帰り、ヤヤ」

ミレイちゃんは不思議な気がしました。

「ヤヤ」はおかあさんの名前です。でも、ふだんは、だれも「ヤヤ」とは呼びません。「おかあさん」とか「ミレイちゃんママ」とか。おとうさんだつて「きみ」だし。そうか。おかあさんにも、ちゃんと名前があつて、それと呼んでくれる人がいるんだ。

「あんた」その人はいいました。

「……ちよつとブスになつたね。昔は、あんなに可愛かつたのに」

「ママ、ひどい！わたしだつて、年をとるわよ」

「アツハツハ。あたしみたいな年寄りにいわれたくはないよね。ところで」

その人は、おかあさんの背中の上しろで息を殺しているミレイちゃんを見ながら、いいました。

「そこに隠れて、もじもじしているのが、あんたの娘、あたしの孫つてことだね。紹介してくれるかい。いや、自己紹介してもらおうかね」

ミレイちゃんは、おかあさんの手で、その人の前に引つ張り出されました。ミレイちゃんは、なんだか恥ずかしくてたまりません。ミレイちゃんはもともと内気な女の子だし、しかも、初めて、自分のおばあさんと対面するわけだから、無理ありません。

ミレイちゃんは、うつむきながら、ちらりと、その人を見ました。髪は真っ白、上品で優しそうなおばあさんです。

こういうときつて、なにをいえばいいのかしら。ああ、考えておけばよかった！

「……初めまして……ミレイ、といいます……あの……なんて、お呼びすればいいんでしょうか」

「なんと呼んでもらつてもかまわないよ。おまえのおばあさんだから、おばあさんでも、バーバでも。おまえの好きなように」 じゃあ、バーバだ。ミレイちゃんはすぐにそう思いました。だつて、その人は、「バーバ」としかいえないような感じがしたんですから。

「じゃあ、バーバ……あのお、それ、エプロンですよね」

「ああ、これかい？さつきまで絵を描いていたからね。作業用さ。おや！」

その人は、ミレイちゃんのリュックを見て驚いたよう

した。「なんて懐かしいんだ。そこにいるのは、^{注2}ビーちゃんじゃないか」

「バーバ、ビーちゃんのこと知ってるの？」

「もちろん。あたしが、ヤヤに……いや、おまえのかあさんにプレゼントしたものなんだからね」

(高橋源一郎「わたしの「バーバ」」による)

注1 ごめんなさい……ミレイの母親は結婚を両親に反対されたが、その反対を無視して結婚し、その後何年も母親と会っていなかったため、ここで謝っている。

注2 ビーちゃん……くまのぬいぐるみの名。

二の設問

問一 線部 a・b の語句を正しく使用した例文として、最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 「息を殺して」

- 1 息を殺してかけもどる。
- 2 あまりの美しさに息を殺す。
- 3 息を殺して身をひそめる。
- 4 試験会場は息を殺すような空気だった。

b 「内気な」

- 1 彼は非常に内気だったので、話しやすかった。
- 2 私は内気なので友達づくりに時間がかかる。
- 3 人前でも堂々と話せる内気な人になりたい。
- 4 ピアノの発表会が近いので、内気になる。

問二 「ママ」(線部ア) が指す人物について詳しく説明している部分を、本文中から句読点をふくめて二十文字以内で探し、その最初の五字を書きなさい。

問三 「その女の人は、おかあさんの肩にそっと手を置きました」(線部イ) とありますが、どうしてこのような行動をとったのですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 弱々しく謝る自分の娘を優しくなぐさめるため。
- 2 自信なさげに話をする娘が話しやすくするため。
- 3 久しぶりに会ったのに謝るのは失礼だと伝えるため。
- 4 昔をくやむ自分の母親を心から許そうと思ったため。

問四 「ミレイちゃんは不思議な気がしました」(線部ウ) とありますが、どのようなことに対して「不思議」だと感じたのですか。その内容として誤っているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 母親がいつものように「母」と呼ばれないこと。
- 2 母親にも他の人と同じように名前があるということ。
- 3 母親がふだんと違って本名で呼ばれていること。
- 4 母親が別の女性を「母」と呼んでいること。

問五 会話から読み取れる「わたし」(線部オ) と「あたし」(線部オ) との関係の説明したものととして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 昔から悪口を言い合ってもめている、険悪な関係。
- 2 話をしようとしても気が合わず、よそよそしい関係。
- 3 軽い冗談を言ったとしても笑い合える、親密な関係。
- 4 久しぶりに会って話すことがなく、気まずい関係。

問六 「……初めまして……ミレイ、といいます……あのお……なんて、お呼びすればいいんでしょうか」(線部カ) とありますが、このときのミレイの様子について説明したものととして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分のおばあさんに初めて出会ったので、とても緊張してうまく話せない様子。
- 2 初めて自分のおばあさんに対面したことに興奮して、言葉を失っている様子。
- 3 自分のおばあさんに礼儀正しい子だと思われたくて、必死に敬語を使おうとしている様子。
- 4 久しぶりにおばあさんと対面して、何を言っているかわからず、不安になっている様子。

問七 「そこにいるのは、ビーちゃんじゃないか」(線部キ) とありますが、このときのバーバの心情はどのようなものだと考えられますか。五〇字以内で説明しなさい。

問八 本文中の表現について説明したものととして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「……」は長い時間が経ったということを示すためだけに使われている。
- 2 ミレイちゃんの視点から語られている部分と、バーバの視点から語られている部分がある。
- 3 人物の名前を全てカタカナで表記することで、外国の話であるという印象をはっきりと読者に与えている。
- 4 会話文を多く使うことで、読者にとって親しみやすい文章になっている。

受験番号			

名前	
----	--

夙川中学校 第2回入学試験解答用紙 国語

問六	問五	問四	問三	問二	問一																																																																																																						
<table border="1"> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>																																									<table border="1"> <tr><td> </td></tr> </table>											<table border="1"> <tr><td>A</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td>B</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	A				B						<table border="1"> <tr><td> </td></tr> </table>											<table border="1"> <tr><td>X</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td>Y</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td>Z</td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	X				Y				Z		<table border="1"> <tr><td>d</td><td>a</td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>	d	a																				
A																																																																																																											
B																																																																																																											
X																																																																																																											
Y																																																																																																											
Z																																																																																																											
d	a																																																																																																										
40	20																																																																																																										

から。

(※の欄には、何も記入してはいけません)

--

問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一																																																																																																							
<table border="1"> <tr><td> </td></tr> </table>											<table border="1"> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>																																													<table border="1"> <tr><td> </td></tr> </table>											<table border="1"> <tr><td> </td></tr> </table>											<table border="1"> <tr><td> </td></tr> </table>											<table border="1"> <tr><td> </td></tr> </table>											<table border="1"> <tr><td>a</td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	a									
a																																																																																																														
40	20																																																																																																													

(※の欄には、何も記入してはいけません)

--

--